

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

先輩、
小さいですね。



ついポロツと仲のいい
ヤリチンチャラ男職員(巨根)に童貞で
あることがバレ、やりたい子にマシユだと
言ってしまった……

あの人、いい人なんだけど、根がDQNだし
オレの事情けない後輩みたいな感じに接してくるから
「二発やらせてあげる位に躡けてマスター君の
童貞卒業プレゼントしてやるよ」的に
絶対に何かちよっかいをマシユにかけてるはずだ。

違う、違うんです。ガチ恋愛なんです。
突然終わりにかけた世界で唯一慕ってくれた後輩に
ガチ恋している童貞マスターなんです。

ああああ、心配だ。マシユがあの人ヤリチン先輩の
毒牙にかかってエロ本みたいな男の価値を
チンポの大きさでしか判断できないヤリマンビッチに
染められてしまうううう！

そうだ、会いに行こう。とりあえずマシユに会って
あの人には気をつけてって言い……



「マ……マシユ？ちよっと話があるんだけど。
と、とりあえず素材集めの周回に行かない？
最近イベントもなくサボり気味だったし
丁度いいかなって……はははっ。」



あれ？マシユ……？
頬赤くさせてあの人部屋の
なんの用事があるのさ……

まさか、あの人に無理矢理
犯された後に写真撮られて
オレに見せられたくなかったら
セフレになることを条件に
脅されてるんだけど
あの人オスの魅力に惹かれて
呼び出しされるのが
嬉しくなってきたなんて
事ないよな……

オレの考えすぎ……？

「……ごめんなさい、先輩。
少し用事があった……
素材集めは私抜きでお願いします」





じゅ

ちゅっ!♡

ちゅぽ♡

19% 19%

しゅ♡

しゅ♡

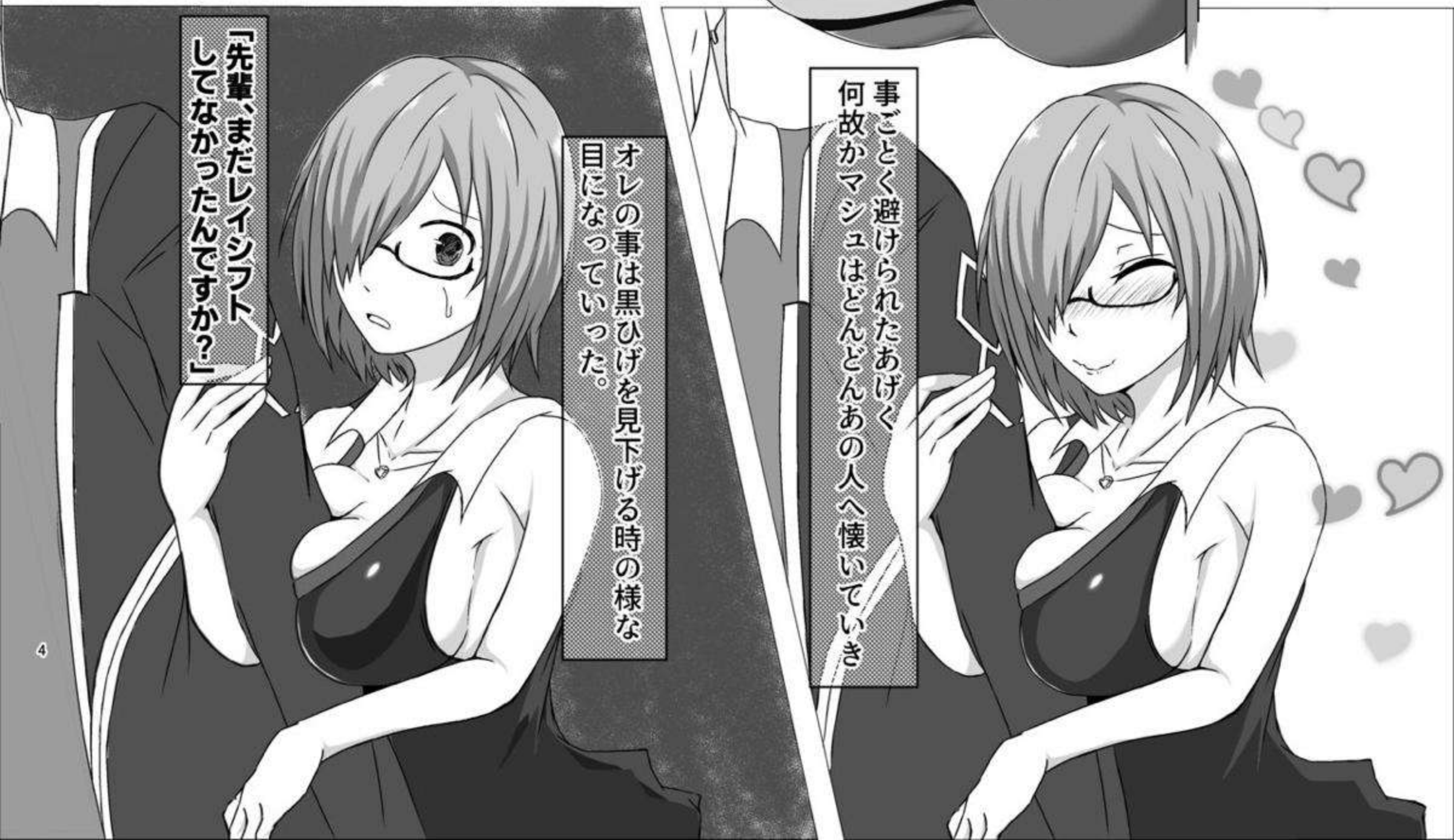
しゅ♡

19%

それから何度もマシユを誘うのだけど……

「ご……ごめんなさい!
今日は……体調が優れないので
部屋でじっくり休みます♡♡♡
一日中……ずっと♡♡♡♡」

うわ、
マシユじゃないよな……



「先輩、まだレイシフト
してなかったんですか?」

オレの事は黒ひげを見下げる時の様な
目になっていった。

事ごとく避けられたあけく
何故かマシユはどんどんあの人へ懐いていき

♡♡♡♡♡

そしてついにあの人から呼び出された。

「えっ、先輩！なんで……！」

「おう、来たなマスター君。
マシユちゃんて童貞捨てたいって
言っただけじゃん？
だから準備してやったぜ！
コイツでドーシと捨てて男上げろよ」

「あの……オレ、マシユで
童貞捨てたい訳じゃなくて。
マシユと付き合いたかったんです……」

「は？そっちだったん？
わりー、コイツとやりたいって
言っただけだから、勘違いしちまったわW
まあ、どっちみち、好きだった女と
ヤれるんだから結果は一緒っしょ？」

「なんの話ですか？先輩の童貞？
私が相手するって事ですか？」

マシユは見下げるようにオレを見つめてくる。
当然だ。こうなると全て分かって
ノコノコやってきたのだから……

淡い恋心を抱きながら、ただ情けない性欲のまま、
童貞を捨てたい一心でオレはこの人の『女』にお願いをしに来た。

「普通に嫌です。なんで私が先輩の童貞を
貰わなくてはいけないんですか？
全くもって要りません」

「はあ？なに怒ってるの？
散々俺のダチにも抱かれてる癖に」

「それは……そつですが
私だって選びますよ。
全くシたくなるような魅力が
感じられないダサイ男は普通に嫌です」

「めんどくせえ女。
ほら、マスター君も脱いじゃえ。
なし崩しでパパッと童貞卒業するぞー」

「はいっすー」

オレは急いで服を脱いだ。
今更マシユにどう思われてもいい。
もうオレには童貞卒業しか
見えてなかった。

「……で、出てくるのがこれですか。
まだ勃起するとしても、こんな汚い
包茎短小チンポ初めて見ましたよ」

はま…

「こんな短小包茎子供チンポ、
彼の頼みじゃなければ絶対に
相手しませんからね」

そう言っマシユはオレのチンポを
信じられないような顔で指さす。
これでもう既にフル勃起を果たしているのだと
知ったら、どんな反応をするのだろうか。
オレはそれが恐くて愛想笑いを浮かべるしかなかった。

「うわー、マスター君が
そんな情けねえチンコだった
なんてなあ。
これは無理だわW
マシユちゃんかったなWW」

「はあ……キモっ。
あの人に言われて仕方なくですよ、先輩。
手でしてあげますから
劣等ゴミカスチンポを勝手に
大きくしてください」

ちゅっ♡

W

ちゅっ♡

「さっさとハメて終わらせませすから
早く大きくしてくださいよ……もっ」

しかし、いくら弄っても
これ以上大きくはならない。
これがオレの限界値だと知らず
浚面を作りマシユはぞんざいに扱く。

そんな乱暴な手淫でもマシユにしてももらえている事実にも容赦なく射精に追い込まれてしまう。

「あっ、い、めんさい。ぷぷっ…嘘ですよね？
これで精一杯？しかも、早すぎませんか？
短小で包茎で早漏なんですか？」

「あははは、雑魚チンポではないですか。
もついいです。横になってますから
適当にすませちゃってください」

そして、やっでしまったと思うが遅く、力尽きへなるオレのチンポを見てマシユの顔は嘲笑へと変わっていった。

「すみません、射精させてももっと小っちゃくなっちゃいましたね。
こんな醜い包茎ドリルチンポ見たことないです」

「まだ勃起できますか？
ふふ……一発でへばるようなフニヤチン
だとしても、そのまま挿入してセックスも
出来ないまま童貞卒業でも面白そうですね♡♡」

「あっコンドームは付けなくてもいいですよ。どうせ先輩が付けられる様なミニマムコンドームなんてカルデアにはありませんから」

オレはフニヤチンのまま童貞卒業だけは避けたい一心でなんとか再び勃起させセックスまでこぎつけた。

遂に、ついにオレはマシユとセックス出来たんだ！でも、マシユのマンコって緩すぎてほとんどチンポに刺激がない。くそっ、すぐ抜けちゃって腰振るの意外に難しいぞ……

「せんばい……まだ終わりませんか？下手くそがへこへこ腰ふっても無駄ですよ。届いてもいないですし……」

「マシユちゃん演技でもいいから少しでも感じてやれないの？マスター君がわいそうだぜ」

「いや、無理ですよムリムリｗｗだつて、本当に先輩のチンポコレしかないんですもの」

「ちっせｗｗｗｗ冗談でもそれはねーべｗｗｗｗ」

「本当ですってw 膣の入り口ろろろしてるだけですw 短小すぎて何度も抜けちゃってw 自分のチンポの短さすら理解してないのですかw w コレを童貞卒業とか認められないですw w」

オレが必死に腰を振る様を見て二人して笑いあう。マシユはこんな下品な笑い方をする人間ではなかったはずだ。

そんな身勝手に幻滅し、オレが腰を振るスピードを緩めてしまった事に気が付いたマシユは飽きましたとつぶやきオレを突き放した。

「もう無駄なんで止めるべきです先輩間違ってもそんな劣等掃き溜めザーメンでオマンコ汚されたくありませんし」

そうだ、いい方法思いつきましたわたしなんかよりもっと先輩に相応しい相手をわたしが紹介してあげます」

「あははは♡本当に出しちゃうんですね
私とのセックスよりゴミ箱へ
精液打ち棄てる方がやはり先輩には
向いてたみたいですよ♡」

ゴミ箱……

「短小で早漏でおまけに
うっすいザーメン……
先輩は、本当にどうしようもない
オチンチンですね」

「おめでとうございます
先輩のザーメンは無事
ゴミ箱ちゃんへ着床しました。
これで先輩のお嫁さんですよ♡」

ねちねち

「よかったな！
無事マスター君にも
彼女が出来たわけだし
オレもほっとしたわー」

それでは、先輩
また明日
お会いしましょう♡

「さあ、楽しめましたし
もう帰ってください♡
わたしはこの人と
ラブラブセックスしますので、
先輩は邪魔ですよ♡」

「ゴミ箱は差し上げますので
マイルームのお気に入り
しておいてくださいね♡」

あとがき

この本が皆さんの元へ届いたとき
私はもう爆死してるでしょう。

ほぼはじめまして、カサイ屋と申
します。久しぶりの同人誌制作は短い
ページ数ですが3ループは欲しいくら
いに難産でした。

今は水着サーヴァントが盛り上がって
ますが置いておいて、遂にダ・ヴィンチ
ちゃん追加とあっては本気出さずには
られません。

では、廻してきます。

奥付

発行：カサイ屋本舗

発行者：カサイ屋

発行日：2019/08/12

印刷：サンライズパブリケーション株式会社 様

連絡先：kasaiyahonpo@gmail.com

COMIC MARKET 96
2019.08.12

カサイ屋
本舗